

protothéâtre

PRESS RELEASE

プロトテアトル第13回本公演

「ザ・パレスサイド」

ロームシアター京都×京都芸術センター

U35 創造支援プログラム “KIPPU”

公演期間：令和6(2024)年9月14日(土)～9月15日(日)

会場：ロームシアター京都 ノースホール



第7回本公演

『どこよりも遠く、どこでもあった場所。
あるいは、どこよりも近く、何もない。』

撮影：河西沙織(劇団壱劇屋)



第12回本公演『悲しき玩具 Bang Bang』

撮影：ヤギタツノリ

企画概要

プロトシアターの第 13 回公演は、本公演としては初めて京都で創作、上演を行う公演となる。

劇団員の脚本による新作の長編作品は 2020 年に新開地アートひろば(当時は神戸アートビレッジセンター)にて行われていた KAVC FLAG COMPANY 2020 で上演した「XX」以来、約 4 年ぶりとなる。今回の公演では、プロトシアターが得意とする、静かでリアルな会話を主とし、普段大阪で活動している我々があえて京都で創作と上演を行うということを意識した作品を上演したいと考えている。

ロームシアター京都 × 京都芸術センター
U35 創造支援プログラム

KIPPU

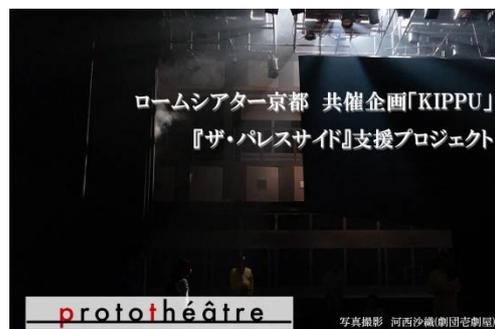
<https://rohmtheatreyoto.jp/news/115169/>

今公演の特徴

プロトシアターとしては初めて京都で上演を行う公演となります。普段は大阪で公演を行う事が多い我々ですが、劇団員は大阪だけでなく関西の各地に在住しており、代表の F.O.ペレイラ宏一朗が京都在住なこともあり、京都という都市を多角的に捉え、街と人を繋ぐ普遍的な事象が立ち上がっていくような作品を上演できればと考えております。

また今回、広報の一環と資金調達としてクラウドファンディングを行っております。

リターンは主に劇団員からのお礼など、劇団をより身近に感じて貰えるようなものになっております。



https://camp-fire.jp/projects/755505/view?utm_campaign=cp_po_share_c_msg_projects_show

プロトテートルとは

「protothéâtre=試作劇場(あるいは試作演劇)」。

2013年、近畿大学舞台芸術専攻23期生一部のメンバーで旗揚げ。

作品性を固定しているわけではないが、これまでは主宰 F.O.ペレイラ宏一朗の戯曲あるいは演出作品を中心に、人生において普遍的であり、誰もが共感できる出来事を扱ってきた。

静かでリアルな会話を主とし、観客の過去の思い出や経験を呼び起こす。借景に似た作り方をしている。

「KAVC FLAG COMPANY2019-2020」選出。

「令和4年度 次世代応援企画 break a leg」選出。

『ノクターン』(作・演出:F.O.ペレイラ宏一朗)が「ウイングカップ5」(2015)最優秀賞受賞。

『どこよりも遠く、どこでもあった場所。あるいは、どこよりも近く、何もない。』(作:F.O.ペレイラ宏一朗)が「第26回 OMS 戯曲賞」最終候補にノミネート。

プロトテートルの今後の展望

2023年に新しい劇団員が増えたこともあり、これまでの創作を担っていた F.O.ペレイラ宏一朗の作品だけでなく、他劇団員が作・演出を務めるなど作家・演出家を固定せず様々な創作態勢を展開し、一つの団体の中で多種多様な作品を生み出したいと考えている。劇団員のオリジナル脚本だけでなく、過去に上演した作品の再演や、既成戯曲などの上演も積極的に行っていきたい。

その中で新たなプロトテートルらしさ、劇団の在り方を確立させていきたい。

公演概要

『ザ・パレスサイド』

作・演出 F.O.ペレイラ宏一郎

男は生粋のホテルマンだった。生後二日にしてきれいなお辞儀を覚え、嫌味のない笑顔はお手の物、稼いだチップで小中高の学費を払った・・・という噂だが本当かどうか分からない。

街には大きなホテルがあった。宮殿と呼ばれたそのホテルは街のシンボルであった。男はそこで働くことが目標だった。そのために生まれてきたようなものだった。

いよいよそのホテルに勤めようとしたとき、新たな景観法が施行されホテルは以前よりもこじんまりとしてしまった。

瞬間、未来を見た。このホテルはやがて消えて行くのだと。

自分よりも早く忘れられていくのだと。

これは、消えて行くものと、歩いて行くものとそれに纏わるものの群像劇。

公演日程

2024年

9月14日(土)13:00 / 18:00

9月15日(日)11:00◎ / 15:00 全4ステージ

※受付開始は開演の45分前、開場は30分前です。

※未就学児の入場不可

◎9/15(日)11:00の回は、託児サービスあり。

託児サービス対象年齢：3カ月～就学前 料金：有料 1,000円／1公演／1人

きこえない・きこえづらいお客様へ ヒアリンググループ対応のお席がございます（座席位置・数に限りあり）。

※託児サービス、ヒアリンググループの詳細・お申込みはロームシアター京都 WEB ページをご確認ください。

<https://rohmtheatrekkyoto.jp/event/119792/>

※車椅子席をご希望の方、介助者同伴の方は、プロトテアトルまでご連絡ください。

公演会場

ロームシアター京都 ノースホール

住所 〒606-8342 京都市左京区岡崎最勝寺町13

TEL：075-771-6051

アクセス方法

- 京都市営地下鉄東西線「東山」駅下車1番出口より徒歩約10分
- 市バス32・46系統「岡崎公園ロームシアター京都・みやこめっせ前」下車すぐ
- 市バス5・86系統「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車徒歩約5分
- 市バス31・201・202・203・206系統「東山二条・岡崎公園口」下車徒歩約5分

チケット料金

一般/前売 3,000円 一般/当日 3,500円
U-25/前売 2,500円 U-25/当日 2,800円
U-18/前売 1,000円 ※前売りのみ
リピート割 1,500円
※各種割引は要証明書(リピート割は半券提示)

《取扱》

劇場先行発売日 | 2024年6月22日(土) 一般発売日 | 2024年6月29日(土)

- プロトテアトル こりっちチケット
<https://ticket.corich.jp/apply/321944/> (当日精算のみ)
- ロームシアター京都 オンラインチケット 24時間購入可 ※要事前登録(無料)
<https://www.s2.e-get.jp/kyoto/pt/>
- ロームシアター京都 チケットカウンターTEL.075-746-3201
(窓口・電話とも 10:00~17:00/年中無休
※臨時休館日等により変更の場合あり)
- 京都コンサートホール チケットカウンター TEL.075-711-3231
(窓口・電話とも 10:00~17:00/第1・3月曜日休館※休日の場合は翌日)
- 京都芸術センター 事務所窓口(10:00~18:00)

出演者

豊島祐貴、ヤマナカサヨコ、伊藤芳樹(以上、プロトテアトル)
高安美帆(エイチエムピー・シアターカンパニー) 羽室ミユ(かまもと小町) 真芝尤
※順不同、敬称略
※出演者であり劇団員の小島翔太は急病のため、降板することとなりました。

スタッフ

演出部 植松篤(立ツ鳥会議) 鴨梨(あたらよ) 高谷誉(D地区)
舞台監督 西野真梨子
舞台美術 佐野泰広(CQ)
音響 廣岡美祐(株式会社 Road-K)
照明 幸野英哲(PAC West Inc.)
衣装 清水春香(Thenon works)
当日運営 渡邊裕史(ソノノチ)
制作協力 Booster
宣伝美術 Mock Mops
制作 鶴山聖(プロトテアトル)
※順不同、敬称略

《主催》

プロトテアトル

《共催》

ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化財団)
京都芸術センター(公益財団法人京都市芸術文化協会)、京都市
京都市文化力チャレンジ補助事業

プロトテアトル これまでの公演活動

【2013年】

【6月】「オールジャンルイベント祭！vol.Final」にて「圧倒的ブラック」上演後そのメンバーで旗揚げ。

【9月】新長田アートシアターdBにて第一回本公演「ほくらの新製品開発課」上演。

【2014年】

【2月】近畿大学内にて第二回本公演「アサ村ショウ一郎」を上演。

【4月】雪国の孤児院を舞台にした第三回本公演「狐の声が聞こえてから」をウイングフィールドにて図上演。

【2015年】

【1月】ウイングフィールド主催の演劇祭、ウイングカップ5に参加。第四回本公演「ノクターン」をウイングフィールドにて上演。記憶をテーマに、舞台上で起きている出来事と、舞台裏で進んでいる別の物語とを紡いだ会話劇。好評を博す。ウイングカップ5最優秀賞を受賞。

【5月】万博設計の橋本匡市氏と共同製作で電車事故をモチーフとし「INEMURINOKUNI」を京都 KAIIKA の gate#13<may>にて上演。

【8月】カフェ+ギャラリーCan tutkuにて短編多ジャンル演劇祭「フェスティバル#1」を開催。別ジャンル（時代劇、不条理劇、エンタメ、音楽劇、コント、会話劇、沈黙劇）の短編7作を新作書き下ろしとして上演。

【12月】名古屋の大晦日演劇イベント、ミソゲキ 2015に参加。大晦日に生き埋めになった若者たちの会話だけの劇、「レディカンヴァセーション」を上演。舞台美術なし、照明は四灯のみ、役者は一歩も動かないというものだった。

【2016年】

【1月】第五回本公演をリーディング公演に変更し、ウイングフィールドにて上演。

【10月】京都府立朱雀高等学校にて劇団初の学校公演を行う。取り壊しが決まっている校舎を訪れた男がかつての親友に別れを伝える「抜け落ちた不死鳥の羽は生きているか」を上演。

【11月】短編演劇祭の第二弾「フェスティバル#2」を開催。関西で活躍する4名の劇作家、野村有志(オパンボン創造社)、福谷圭祐(匿名劇壇)、久野那美(点の階)、山本正典(コトリ会議)短編の書き下ろしをペレイラが演出し、上演。

【2017年】

【4月】第六回本公演「行進曲—マーチ—」をウイングフィールドにて上演。

【10月】京都府立朱雀高等学校にて学校公演を実施。将来に不安を抱えた男たちが取り壊しが決まった校舎に集まり、あの頃のようにふざけあい希望を見出す「そこはそこはかとなく、何も無く、僕は泣く」を上演。

【2018年】

【4月】第五回本公演作品をリライトし、第七回本公演「どこよりも遠く、どこでもあった場所。あるいは、どこよりも近く、なにもない。」をウイングフィールドで上演。人生に希望を見いだせず、時代にも家族にも置いて行かれる男が歩き出す物語。

【2019年】

【6月】ミソゲキ 2015にて上演した短編作品「レディカンヴァセーション」を長編化し、同タイトルで第八回本公演として芸術創造館にて上演。プロトテアトル史上最大規模で挑んだ公演は動員320人を超える。

【10月】2018年4月に上演した第7回本公演「どこよりも遠く、どこでもあった場所。あるいは、どこよりも近く、なにもない。」が第26回 OMS 戯曲賞最終選考に残る。

【2020年】

【2月】KAVC FLAG COMPANY2019-2020に選出。第9回本公演「XX」(ダブルエックス)を上演。プロトテアトル史上最大の出演者数で、光と闇が交錯する、架空の街を舞台に繰り広げられる追憶の劇を描く。

【2021年】

【5月】「ノクターン」の再演を二度の延期を越え、無観客の配信公演として上演。本作は当初2020年にウイングカップ再演大博覧會にて上演予定であった。

【2022年】

【6月】アイホールの次世代応援企画 break a leg ファイナル！！に選出。第十一回本公演として2019年上演「レディカンヴァセーション」に加筆修正を行い「レディカンヴァセーション(リライト)」として上演。

【2023年】

【3月】ウイングフィールド30周年記念事業として、プロトテアトル短編演劇祭「フェスティバル#3 Match pomp」を上演。

【7月】第十二回本公演「悲しき玩具 Bang Bang」を上演。

プロトテアトル10周年記念公演として、旗揚げメンバーが通っていた近畿大学文芸学部芸術学科、舞台芸術専攻の教授を務めていた竹内銃一郎氏に新作戯曲の書き下ろしを依頼。劇団代表であるペレイラ以外が作劇した長編作品を上演するのは初となる。

【2024年】

【1月】

プロトテアトル短編演劇祭『フェスティバル#4 Match up』を上演。

2024年に入団した伊藤芳樹による作品とF.O.ペレイラ宏一朗による作品の二本立て企画となる。

プロトテアトル メンバー



代表 / 俳優 / 劇作家 / 演出家
F.O.ペレイラ宏一朗



俳優 / 副代表 / 舞台監督
豊島祐貴



俳優
小島翔太



制作
鶴山聖



俳優
ヤマナカサヨコ



俳優 / 劇作家 / 演出家
伊藤芳樹



俳優 / 演出助手
有川水紀

【プロトテアトル】

prototheater@gmail.com

090-6052-0050 F.O.ペレイラ宏一朗

090-6663-4812 豊島祐貴